

# 行政視察報告書

<b>1. 委員会または会派等</b> 民主・護憲クラブ
<b>2. 視察期間</b> 令和5年10月18日から 令和5年10月19日までの 2日間
<b>3. 視察先</b> ① 山口県周南市 徳山動物園 ② 香川県三豊市 高瀬中学校 ③ 香川県丸亀市 丸亀市役所
<b>4. 視察項目</b> ① 徳山動物園のリニューアル事業の取組について ② 高瀬中学校夜間学級における授業状況等について ③ 移住・定住事業について
<b>5. 参加者</b> 〔議員〕 松尾哲也、古庄和秀、森田義孝、船原基近、奥村橋倫、櫻井ちはる 〔同行〕 古庄議員の介添人1名 〔随行〕 なし
<b>6. 考察</b> 別紙のとおり
以上のとおり、報告いたします。  令和5年11月18日  報告者 _____ 松尾 哲也 _____  大牟田市議会議長 殿

## 6. 考察

### (1) 徳山動物園のリニューアル事業の取組について

山口県周南市 【人口】136,516人 【面積】656.29km<sup>2</sup>

#### ■概要

昭和12年 徳山公園が開園 8.1ha (防災公園)

昭和35年3月 徳山動物園開園 5ha (リニューアル面積)

平成21年度からリニューアル事業を推進中

#### ■新規動物の受入れ状況の実情や課題

##### ①受入れ状況

現在、106種 509頭

##### ・スリランカ象

アフリカゾウが居なくなったので、(オス、メスの2頭)スリランカ国交60周年における寄贈で受け入れた。購入や移動の為の基金(ぞうさん基金)を青年会議所が立ち上げて、準備を進めた。

##### ・ヤマアザラシ

繁殖レンタル、ブリーディングローン

##### ・カメレオン

国内業者より購入

##### ・カエル

国内業者より購入

##### ・アオソドオトカゲ

##### ②課題

- ・動物福祉の観点で種類ごとに飼育面積が広がる傾向がある。
- ・海外からの購入の際、信頼できる業者がない。

#### ■リニューアル事業の計画と進捗

- ・平成21年度に基本計画策定
- ・平成25年度から北園の工事に着手
- ・平成26年から平成30年度に各所オープン(北園駐車場、るんちやるんちや、自然学習館、野鳥観察所、ペンギンプール、噴水広場)
- ・平成27年度、国交60年を記念してスリランカより象の寄贈を受け、象舎優先とした計画に見直し
- ・平成28年度から南園のアジアの熱帯雨林ゾーン整備に着手
- ・令和3年4月に、リニューアル基本計画を変更
  - 総事業費は、当初予算50億円から約70億円に変更
  - 都市構造集中支援補助事業
  - 令和5年3月時点の整備率は45.4%、令和14年の完全オープンを予定

## ■集客の状況や課題

- ・来場数の推移  
令和元年度：26万6千人、令和2年度：20万8千人、令和3年度：19万人、  
令和4年度：26万人(小動物のふれあい再開)  
令和5年度：(予想)34万人 《累計1,800万人》
- ・主な要因は、年間パスポートの加入促進。SNSの発信、軽食・売店ブースの充実、オリジナル商品の販売。
- ・課題  
近隣市からの来園を増やすため、山口ケーブルテレビの活用を検討している。民間活力の導入により魅力あるものにする。

## ■予算及び財源等

- ・リニューアル事業 現在総事業費 約70億円 (令和3年4月)
  - ・令和4年度決算

歳出		4億7千万円
内訳	給与	2億8,700万円 (正職員)
	管理運営費	8,700万円 (財源は入園料ほか)
	飼育費	3,600万円
	社会資本交付金	1億1,000万円(国の補助)
歳入		
内訳	一般財源	1億9,300万円
	入園料	7,900万円
	行政財産	190万円
	雑収入	150万円 (イベント、売店(民間委託)、えさ代等)
	ふるさと納税	400万円
	補助金	4,300万円
  - ・令和5年度 4億円  
管理棟(3階建鉄骨造、延床面積800㎡)、大型冷蔵庫、動物病院、2階職員執務室、3階会議室)
  - ・令和6年度 10億円
  - ・令和7年度 6億円
  - ・令和8年度 4億円
- 計20億円

## ■指定管理者との関係・事業展開の連携等

現在は、直営で行っているが、現在、民間活力の導入を計画している。それについては、事業手法と規模案。「P-PFI+指定管理者制度」  
添付資料：「徳山動物園民間活力導入について」

## ■質問と回答

問：隣接する文化施設の在り方について。

答：駅から1.5kmの場所にあり、回遊性を持たせることが必要となっている。  
美術館の割引券など、入園者を増やすために民間活力を検討している。

問：象の受け入れに関する費用について。

答：輸送専用機が7,000万円。象の獣舎に5億円。  
2か月間、現地からスタッフを呼んで動物園の市職員2人を研修した。

問：発信について。

答：飼育情報の発信を毎日行っている。  
撮影と発信は、獣医師3人のうち1人が集中的に行っている。

問：整備計画を進める上で、市議会や市民との意見交換の場の設定について

答：市議会（委員会）には、令和4年に説明した。  
市民や近隣住民の意見は、パブリックコメントで聞いた。

## ■園内視察

北園入口～自然学習館（併設のレッサーパンダ展示場）～ふれあい動物舎（モルモット）～ブリッジ（北園と南園を結ぶ築63年の橋）～ゾウ舎

## ■所感

平成25年度から工事着手されており、入場した北園の駐車場周辺も整備されていた。11年目の今年度は、第4フェーズが進行中である。

総合公園の一角に動物園があり、周辺環境は本市の動物園と似ていた。

完成から63年となり、20年間をかけたリニューアル事業の計画となっている。本市の整備計画は施設の一部の計画であることから、今回の本市の計画にないエリアの整備計画も第2次計画として検討を行い、財源が確保ができるかといったことを含め、長期計画を行う必要性を感じた。

本市の動物福祉の取り組みは、やはり本市動物園ならではの挑戦として、誇れる点である事を再認識した。

## (2) 高瀬中学校夜間学級における授業状況等について

香川県三豊市 【人口】59,352人 【面積】222.7km<sup>2</sup>

## ■【三豊市の概要】

2007（平成18）年に、三豊郡の7町が合併して三豊市となった。香川県の西部に位置し、徳島県と接している。

第1次産業従事者が人口の10%余り存在し、温暖な気候のもと、農業と瀬戸内海の豊かな海での漁業が盛んとなっている。さらに、父母が浜（ちちぶがはま）の絶景が評価され、国内外から多くの観光客が訪れている。

## ■【三豊市における公立夜間中学について】

(開設までの沿革)

公立夜間中学は、2016（平成28）年に「教育機会確保法」が成立し、全ての地方公共団体で公立夜間中学における就学機会の提供等の措置を講ずることが義務づけられたことを受けて、政令市、都道府県に最低1校は設置する方針を文部科学省が示している。

三豊市の夜間中学校設置は、2020（令和2）年の市長施政方針において、「学びの場」の確保という点から設置を検討するということから始まった。

公立夜間中学校設置に向けては、2020（令和2）年からニーズを把握するためのアンケート調査を実施し、配布枚数は2080枚、311件の回答があった。そのうち、自分が学んでみたいとの答えが105件あった。

2020（令和2）年時点での三豊市における義務教育未終了者数は、712名おり、香川県内の7,147人の約1割となっている。また、香川県内の小・中学校における長期欠席者（不登校）は、2020（令和2）年現在、1,514人となっている。それらの状況を背景として、「誰1人置き去りにしない、生徒が主役の多様性を尊重する、三豊の夜間中学」という設置方針によって、2022（令和4）年4月に開校した。

(高瀬中学校夜間学級の特色)

高瀬中学校夜間学級は、学齢期（本来中学校に在籍すべき15歳までの者）の在籍が認められる全国唯一の「不登校特例校（現：学びの多様化学校）」の指定を受けている。2023（令和5）年度は、第2学年に2名の学齢期生徒が在籍している。

(高瀬中学校夜間学級の現状)

◆学齢経過者 在籍数 16名（日本国籍14名、外国籍2名）最高齢80歳台

◆学齢期 在籍数 2名（学年 2学年）

◆在籍数 第1学年：8名 第2学年10名 計18名

◆教職員配置 15名

(校長1名：兼務、教頭1名：専任、常勤教員5名、  
非常勤教員6名（半日勤務職2名：養護教諭、事務職員）、  
スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー)

◆日課

学齢経過者 17：25～20：50まで 40分4校時 途中20分休憩

学齢期者 16：40～20：50まで 40分5校時 途中20分休憩

◆年間授業時数

学齢経過者：700 時間

学齢期者：805 時間

◆生徒の受入れについて

学齢期者：事前相談後に1か月以上の体験入学を経て、転入までに3回の面談を行う。

学齢経過者：事前相談後に面談と体験入学を行い、本人の意思を尊重し入学を決定する。

■質問と回答

問：全国唯一の学びの多様化学校として、夜間中学を運営するにあたり、教育行政上の展望と課題について。

答：学習については、個に応じた分かり授業の工夫。

生徒指導については、仲間づくりにつながる学活、学校行事等の工夫、居場所づくりの実現に向けた生徒理解の促進。

また、他校の生徒や地域の人々とふれあう機会の創設を行っている。

しかしながら、在籍生徒数18名の内、毎日出席ができている者は約半数となっている。

展望としては、学齢経過者の高齢者と学齢期の生徒が共に学び交流が深まることで、不登校生徒の進路実現が図られることができました。

問：夜間中学校の人事配置に当たって、昼間部との連携や課題について。

答：常勤教員5名の内4名が再任用。また、養護教諭や事務職員も再任用ハーフ勤務者を充てている。特徴的な人事は、日本語通訳を兼ねて日本語教員の資格所有者が1名常勤で配置されている。

有資格者で講師登録者が、偶然、近隣市に在住していたため、勤務が可能となったことから、公募等はしていない。

昼間の教員が夜間の授業を担うことはない。

問：教育課程の内容と工夫及び実施上の課題

答：学齢期の授業は、経過者と異なり時間数を増加しなければ文部科学省からの認可が下りなかった。よって、学齢期の生徒には、0校時（ひなの時間）として時間数を増やし、修得単位数を満たすようにしている。

問：予算及び財源について

答：人件費予算には、県費負担教職員であるので市の単独負担は、日本語通訳、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの配置が市費となっている。三豊市の教育予算は、51億1,987万2千円であり、予算の

構成比において 15.0%となっている。

#### ■所感

三豊市の夜間中学校設置については、岡山県で先行事例として自主夜間中学校を運営されていた「城之内庸仁 氏」の存在が大きいと思った。

城之内氏は、大牟田市における検討委員会のメンバーでもあり、全国の夜間中学校設置に向けて熱心に取り組まれている。その城之内氏が関わった三豊市立高瀬中学校夜間学級は、山田洋次監督作の映画「学校」のシーンを彷彿とさせる教育の現場だった。

今回の視察では、地域の中学校に通う予定の学齢期 14 歳の生徒と、80 歳代の学齢経過者が体育の授業を一緒に受けている場面を見学することができた。互いに汗を流し、笑いながら、励ましながら授業が展開している場面は、ほのぼのとして誰もが安心して学ぶことができる学校だった。

大牟田での取組も、高瀬中学校に次いで、全国 2 例目の学びの特色化学校として、位置的条件の優位性を活かした取組が行われるように、今回の視察を大いに参考としたい。

### (3) 香川県丸亀市

【人口】 108,143 人(令和 5 年 4 月 1 日現在)

【面積】 111.83 k m<sup>2</sup>

#### ①移住・定住事業について

##### ■視察の目的

日本の人口減少は、各自治体がまちづくりを行う上でも大きな課題となっている。少しでも人口減少に歯止めをかける施策が求められており、近隣自治体だけではなく、大きな視野で考えていく必要がある。今回、移住・定住事業を積極的に取り組んでいる丸亀市から各事業の内容や考え方、課題等について説明を受けることとした。

##### ■施策の概要 ※詳細は、当日配付資料参照

##### ■地元定着・回帰促進プロジェクトについて

#### I 保育士修学資金等貸付制度

##### ・内容

市内の保育所等で保育士として勤務する意思のある方に対し、修学や就職に要する資金を貸し付けることにより、その修学及び就職を支援し、市内の保育所等における保育士の確保を図る。

##### ・貸付制度の実績

**【修学資金等】**

R 4 6件 249万円

(うち入学資金 3件 60万円)

R 5 16件 733万円 (10月13日時点)

(うち入学資金 11件 220万円)

**【就職準備資金】**

R 4 21件 630万円

R 5 14件 420万円

**【予算額】** 1298万円 (一般財源)

**II 香川県ふるさとインターシップ**

・主催

丸亀市・善通寺市・多度津町・琴平町・まんのう町

(瀬戸内中讃定住自立圏)

・内容

地元出身で首都圏、関西圏等に在住している学生を対象とした、地元企業へのインターシップを夏休みに実施している。地元企業の知名度アップと人材獲得につなげるとともに、定住自立圏域への移住定住の促進を図る。

**【学生の声】**

- ・地元で働くイメージが湧いた。
- ・優良企業が多数存在していることに気づかされた。

**【企業の声】**

- ・知名度を上げるよい機会になった。
- ・夏休みだけでなく年間を通じて実施したい。
- ・学生に安心感を与えることができた。

**III 丸亀市役所インターシップ**

・内容

大学や高校等に在籍する学生・生徒を対象として、市役所の業務体験の機会を提供することにより、学生等の職業意識の向上や市政に対する理解を深めることを目的としている。

・実績

令和5年8月22日から28日(計5日間) 学生6名参加

**【学生の声】**

- ・想像以上に幅広い仕事を担っていることを知ることができた。

**IV 丸亀市空き家活用型サテライトオフィス等整備事業補助金**

・内容



丸亀市内の空き家を事業所として改修する経費の一部を補助する。

- ・ 予算

1200 万円（うち県補助 1/2）

#### V 丸亀市定住促進民間賃貸住宅家賃等補助金

- ・ 内容

県外から丸亀市への移住者の賃貸住宅に係る費用を一部補助する。

#### ■所感

丸亀市の担当者から、重要施策の一つである移住・定住事業について、保育園の待機児童解消に向けた保育士確保の取組を強化していることや地元企業への就職を促すために近隣市町村と協力しながらインターシップ事業に取り組んでいることについて、詳しく説明を聞くことができた。

大牟田市においても、有明圏域定住自立圏共生ビジョンを作成し、移住・定住の取組を行っているが、人口減少に歯止めがかかっていない。先進自治体の取組を参考にしながら事業の推進を図っていく必要がある。

今回の丸亀市と意見交換できたことは、大変有意義だった。